



ほけんだより



【進路特集号】 令和5年9月1日発行 大阪府立西野田工科高等学校 定時制の課程 保健室



色を見分けにくい人（色覚多様性といいます）は、日本では男子20人に1人、女子500人に1人とされています。見分けにくい色があると気がついていても日常生活で困ることがなければ自分には関係ないと思ってしまうがちですが、進路のことを考えると、制限がある職業もあれば、就職してから困る可能性もある、ということを知っておいてほしいと思います。



ただし、色の見分けがつきにくい人であっても、色間違いをしないように気をつけて工夫することや、周囲の人に協力してもらうことで、色を扱う仕事に就くこともできます。

就職したい人は？

仕事を選ぶときには、なるべく実際の職場を見学するなどして自分で確かめるようにしましょう。採用にあたっては、本人側の理由（色覚多様性の程度）だけでなく、採用する側の理由（業務内容やその年の受け入れ状況など）も関係してきますので、受験する前に必ず自分で最新の情報を確認しましょう。色覚だけにとらわれず、他の得意な能力を伸ばしておくことも大切です。

制限のある職業

警察官、消防士、自衛官、航空・船舶・鉄道関係、

印刷業（一部）など

制限はないが色が重要となる職業

塗装業、デザイン関係、印刷物の色校正、服飾関係、理・美容師、医療・福祉、

生鮮食品を扱う仕事（肉や魚、野菜などの鮮度をみる仕事）など



進学したい人は？

大学や専門学校への進学も可能です。ただし、パイロットや船舶免許などは専門の学校を卒業しても資格が取得できない場合があります。事前に募集要項などで確認しておきましょう。

また、進学はできても学習に支障がないということではありません。色を見分けにくいという自分の特性についてよく知り、十分に考えて決めることが大切です。



【保護者の方へ】色覚検査のご案内

本校では、色覚多様性に配慮した進路指導ができるよう、希望者を対象とした色覚検査を随時行っております。

担任または保健室までご相談ください（検査には保護者の承諾が必要です）。